

クリに発生する害虫種とその被害

1. 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

県中部において、クリの特産品化を目指した取組が始まっているが、害虫被害が生産上の妨げとなる事例がみられている。しかし、本県においてクリ害虫対策の検討事例が少なく、その対応に苦慮している。そこで、クリ害虫被害の実態を把握するため、栽培ほ場において、発生する害虫種とその被害について調査した。

(2) 情報・成果の要約

- 1) クリにおいて15種（種不明も含む）の害虫被害を確認した。
- 2) 葉はコガネムシ類の被害が多く、果実ではネスジキノカワガ、モモノゴマダラノメイガの被害が多かった。

2. 試験成果の概要

- (1) クリにおいて15種（種不明も含む）の害虫被害を確認した（表1、写真）。
- (2) クリ葉の被害は5月以降漸増し、6月には被害葉率28.7%、8月下旬には同54.7%となった（図1）。複数の加害種を確認したが、中でもコガネムシ類の被害が中心と観察された。
- (3) クリ果実の被害は、7～8月まではネスジキノカワガ、8月以降はモモノゴマダラノメイガが主な加害種であった（表2）。また、樹上ではきゅう果にクリイガアブラムシの寄生が観察された。

表1 クリにおいて確認された害虫種と被害を初確認した時期^a（2013～2014年）

種類	加害または寄生部位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
クリオオアブラムシ	芽、枝	→					
クリイガアブラムシ	きゅう果					→	
クリタマバチ	芽	→					
コガネムシ類	葉		→				
クリシギゾウムシ	果実						→
オトシブミ類	葉		→				
クスサン	葉		→				
マイマイガ	葉		→				
シヤクガ類	葉	→					
ネスジキノカワガ	果実			→			
モモノゴマダラノメイガ	果実					→	
クリミガ	果実						→
ギリガ類	葉		→				
トクガ類	葉		→				
ホソガ類	葉		→				

^a 被害やその寄生を初確認した月に矢印で表記した。

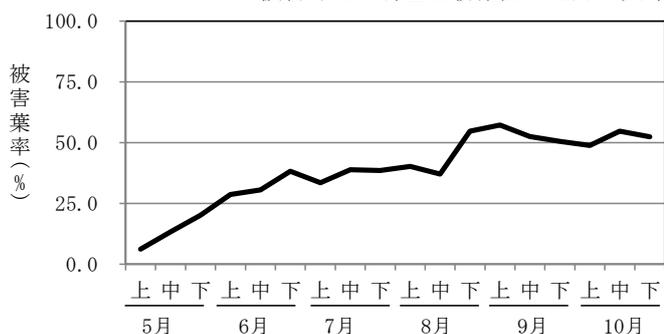


図1 クリにおける被害葉率の推移（2014年）
被害葉率＝被害葉数／調査葉数×100。400葉調査/回、5～10月まで約10日間隔で、全加害種の被害葉数を調査した。

表2 落果きゅう果の被害（2014年）

調査月日	調査数	被害率	主な加害種
6月27日	20	65.0	ネスジキノカワガ
7月15日	20	70.0	〃
7月25日	20	25.0	〃
8月4日	50	4.0	〃
8月15日	50	30.0	ネスジキノカワガ、モモノゴマダラノメイガ
8月27日	50	6.0	モモノゴマダラノメイガ
9月5日	50	20.0	〃
9月16日 ^a	10	—	〃
9月26日	10	—	〃

^a これ以降は被害きゅう果だけを採取し、加害種を確認した。



コガネムシ類

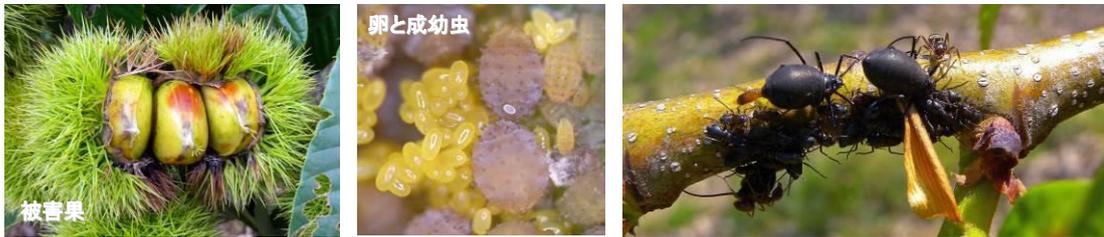
クリシギゾウムシ



ネスジキノカワガ



モモノゴマダラノメイガ



クリイガアブラムシ

クリオオアブラムシ



クリタマバチ

クスサン

写真 クリにおいて確認された主な害虫種

3. 利用上の留意点

(1) 県中部地域における調査結果である。

4. 試験担当者

〔 環境研究室 主任研究員 中田 健
環境研究室 室 長 田中 篤 〕